



町民文芸

只見短歌会

五月詠草

大塚栄一

指導

夫見舞ふと訪ひくるる友多く老い座布団よりも椅子を喜ぶ

古川 英子

藤の花咲けば思ひ出づ亡き友の豆時く時季と詠みたる歌を

渡部ゆき子

取り置きし去年の瓜の小さき種心許なき思ひにて時く

小倉キミ子

御子息を偲び年ごといただきし母の日の花十三回忌

関谷登美子

ちぐはぐに長靴履きて得意気な曾孫は戸口にわが行くを待つ

目黒 富子

時ならぬ五月の山に降りし雪撫の若葉を白く覆へり

五十嵐夏美

懐かしき思ひに駄菓子を求めるも時の流れか味は薄れし

渡部ヨリ子

(出 詠 順)

只見俳句会

六月例会

目黒十一

指導

餌ねだる小鳥を籠に青葉風
被われた布突き抜けて葦の角

又壺歩

恒 夫

くぐりきし遠きいくさや山法師
いただきの白き連山朴の花

吉 児

隔年の枝葉をかくす山法師
喝采止まずカーテンコール風薫

邦 夫

武具飾る奥まで見せて何でも屋
ほととぎすまだ明けきらぬダムの村

笑 羊

瑠璃鳴くや退屈な日の体温計
寝ころべる猫に戸惑う聖五月

康 女

雪嶺や歓声あがる列車内
たっぷりと部屋に届きし春入日

リウコ

初物を食べカ湧く若葉山
故葱の味噌和えはずむ夕餉かな

都

草餅をとなりにくばる雨上がり
夏つばめ母となる日を見守って

ダム晴れて雪食山系みな緑
またたびの白き夏葉や峠晴れ

十 一

ふり上げる鉄先光るぶな若葉
風の無き暖かき日や胡瓜植う

一 穂

洋 子

浴衣なぞ久方ふりと正座せり
水芭蕉飛び立つごとく日を浴びて

礼

「馬場邦夫氏の白寿を祝いて」

青田風入れて白寿を祝いけり
祀らるる大岩三つ滴れり

信

鉄休め見上げる空や雲雀鳴く
新緑やブナの老木倒れいて

邦 男

声上がるランドゴルフ藤の花
目借時しばらくぶりの我が家かな

藤 彦

山中のつつじ公園人^{ひと}気なし
緑さす観音岩や風流れ

山中のつつじ公園人^{ひと}気なし

緑さす観音岩や風流れ